

澄んだ空気と水

現在計画されている山形市立谷川と、上山市川口のゴミ焼却施設(エネルギー回収施設と呼ばれています)が、適正な計画であるか否か市民の目で検討するシンポジウムが、山形市で行われました。主催はゴミ弁連。環境行政改革フォーラム及び、私共山形県の環境と観光産業を守る会が共催しての開催となりました。タイトルは「ゴミ焼却が与える影響と環境」。この第4号通信はその報告書です。

平成25年10月27日(日)13:30よりゴミ弁連会長の梶山正三氏と、事務局長の坂本博之氏をお招きし、前半は梶山氏による山形市周辺のゴミ処理状況の分析結果をお聞きしました。後半は坂本氏による候補地選定に関わる経緯説明と、参加者との質疑応答です。「ゴミ弁連」とは、全国約100名の環境・廃棄物関連弁護士で結成される組織で、梶山氏は多くの廃棄物訴訟、公共事業関連訴訟を熟知した弁護士でいらっしゃる、理学博士です。また坂本弁護士は、環境問題の専門家・弁護士・NPOで組織される「環境行政改革フォーラム」の司法担当幹事でもいらっしゃいます。



説明を行う梶山会長と坂本事務局長

山形広域環境事務組合が管轄する地域は、山形市、上山市、山辺町、中山町の二市二町で、各自治体が排出するゴミの量は山形市がほぼ8割、上山市が1割、山辺町と中山町合わせて1割となっています。これらのゴミは現在、山形市蔵王半郷と山形市立谷川のゴミ清掃工場で焼却処理されています。私たちは9月17日山形市に対し、過去10年分のゴミ処理工場に関する情報公開を求め、9月27日にはこの二つの工場の「山形市ゴミ処理基本計画」並びに「精密機能検査報告書」を受理しました。この資料を、分析がご専門の梶山氏にお送りし、今後の人口やゴミ排出量の予測を行って戴きました。

梶山氏の講演は「山形市一般廃棄物処理計画の何が問題なのか」と題して100分、パワーポイント72枚にわたる説明が行われました。「ゴミとは何か」に始まり、私たちにとって身近な問題でありながら、何も分かっていなかったことに気づかされる講演でした。

平成20年における数値目標

	平成9年度	平成12年度	平成18年度	平成25年度	平成29年度
	実績			目標	
人口 (人)	249,440	249,891	249,998	250,700	246,500
家庭系ごみ (t)	66,886	73,690	63,163	54,100	52,000
事業系ごみ (t)	25,471	29,911	23,772	23,100	22,800
合計 (t)	91,357	103,601	86,935	77,200	74,800
市民1人1日あたりの排出量 (家庭系ごみ) (g)	724	808	692	590	570
市民1人1日あたりの排出量 (家庭系ごみ+事業系ごみ) (g)	1,003	1,136	953	840	830
リサイクル率 (%)	12.8%	11.4%	18.0%	26.0%	27.0%
最終処分量 (t)	11,717	17,793	15,803	5,000	4,900

注1) 人口 実績：住民基本台帳に基づく人口 将来人口：国勢調査に基づく推計人口

まず、現在山形市において排出される一般ゴミ総量が極めて多いということです。それに伴い、平成9年より29年に向けて計画されているゴミ削減目標も現時点で達成されておらず、まだまだ削減の余地が多いということでした。(上記表参照)つまり家庭系ゴミの市民一人あたりの排出量(排出原単位)は減少傾向にあるとはいえ、平成18年度において、692g/人・日となっています。しかし、他の都道府県における原単位最頻値は200~300gということですので、山形市では2~3倍量のゴミを排出していることになります。何故でしょうか？この問題をきちんと分析し、根幹からゴミ削減に取り組む必要があります。

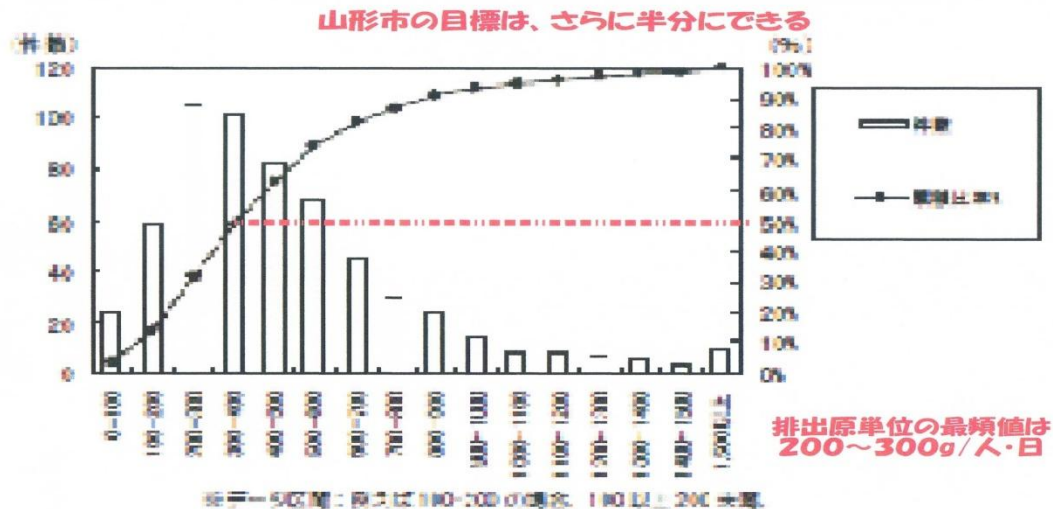


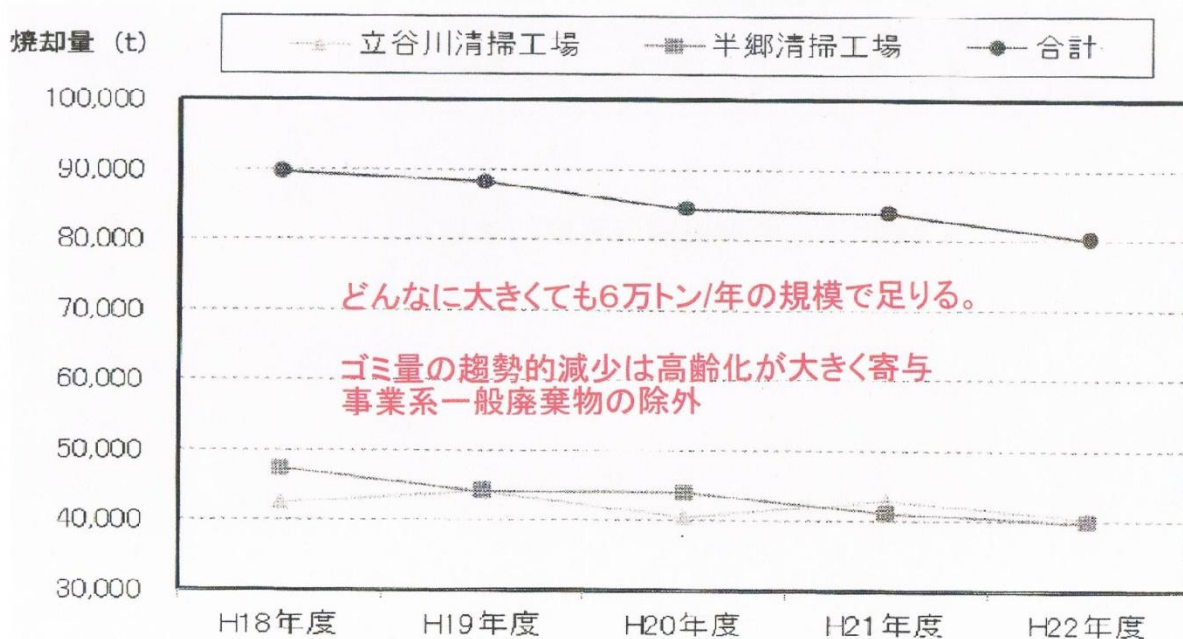
図3-3 資源を除くごみの分布(対象全体)

また山形市における一般ゴミの組成に問題があり、水分が異常に多いとのことでした。通常は20%だそうですが、山形市のゴミ水分量は60%を越えており、焼却に適さない状態で燃やしているということです。これもまた原因を追及する必要があります。

これらの分析により、山形市のゴミは今後大幅削減が可能だと言うことでした。下の表は現在稼働している半郷清掃工場と立谷川清掃工場における焼却量の推移です。少子化による人口減少と高齢化、環境意識の向上により、焼却量はなだらかに下降しています。これにより、立谷川新工場が竣工予定の平成29年には、現在のゴミ量の3分の2程度までの減少が見込まれます。さらに事業系ゴミが一般ゴミに混入している可能性があり、これらの問題を解決することにより、半減可能であるとのことでした。(下表参照)

単位: t

年 度	H18	H19	H20	H21	H22
立谷川清掃工場	42,404	44,079	40,488	42,795	40,342
半郷清掃工場	47,242	44,123	43,981	41,093	39,809
合 計	89,646	88,202	84,469	83,888	80,151



東京都では、不況やリサイクルが進むことによって焼却炉の休止が続出しており、稼働させるためにゴミが足りない状況に陥っているとの報道が行われています。山形広域環境事務組合による新工場建設問題は、14年前に遡り計画されたものです。その間、日本経済は失速し、国民のエコ意識も高まりました。ゴミ焼却施設に限らず、大規模事業は見直しを迫られています。導入予定のガス化溶融炉も、その巨額な投資額、ランニングコスト、運転時の危険性、発生する排ガスの成分等々に配慮し、無駄を無くす努力が必要と思われます。「決まったことだから」という安易な言い訳は通用しないのではないのでしょうか。今後は、山形県が推進する「循環型社会推進」について具体的に考えて行きたいと思えます。この分析を快くお引き受け下さった梶山氏、募金に応じられた皆さまに感謝申し上げます。

ごみ足りない!

都の清掃工場 不況リサイクル進み誤算

焼却炉の休止続々

【本紙記者が、東京都清掃工場（焼却炉）をめぐって、ごみ不足に悩む自治体が増えている。東京都は、ごみ処理能力を確保するために、清掃工場を増設してきたが、不況によるリサイクルの進歩が予想を上回り、ごみ不足に悩む自治体が増えている。東京都は、ごみ処理能力を確保するために、清掃工場を増設してきたが、不況によるリサイクルの進歩が予想を上回り、ごみ不足に悩む自治体が増えている。

東京都は、ごみ処理能力を確保するために、清掃工場を増設してきたが、不況によるリサイクルの進歩が予想を上回り、ごみ不足に悩む自治体が増えている。東京都は、ごみ処理能力を確保するために、清掃工場を増設してきたが、不況によるリサイクルの進歩が予想を上回り、ごみ不足に悩む自治体が増えている。

警視庁、無断で日V検査 「採用拒否は不当」に訴

男性 拒否

【本紙記者が、警視庁が、無断で日V検査を行ったとして、採用拒否を不当と訴えた男性が、裁判で勝訴した。男性は、警視庁が、無断で日V検査を行ったとして、採用拒否を不当と訴えた。裁判は、男性の訴えを認め、採用拒否を不当と判断した。

東京二三区では、平成二三年から既に「ゴミ足りない!」「ゴミが欲しい!」という状況に

県、認可申請を不許可 町長の反対意見受けて

【本紙記者が、千葉県が、認可申請を不許可とした。町長の反対意見を受けて、認可申請を不許可とした。町長は、認可申請を不許可としたことについて、反対意見を述べた。

全国的に問題が多いガス化溶融炉。多くのメーカーが製造から撤退し、現在日本では数社が製造するのみとなった。安定稼働するための人材や助燃剤の確保も課題で、専門性の高さも求められる施設である。部品交換時の高コストも問題にしなければならない。

東日新聞

TONICHI NEWS

発行所/東海日日新聞社 <http://www.tonichi.net>

〒440-0014 愛知県豊田市豊田町1-1-1 TEL:0532-23-2000 FAX:0532-722-7222 E-mail:post@tonichi.net

- ① 地域を笑顔に
- ② 3億円前倒し増資
- ③ 華やかな作品250点発表
- ④ がん検診受診率向上へ協定
- ⑤ 防犯業務速やかな実施へ

交通事故死ゼロの日

毎月10日・20日・30日

★無料 交通安全の心がけ

★安心安全な 免許取得のチャンス

★途中 駐車一時に 免許取得

イワカ自動車学校

豊田校 豊田校

当初から異常、ごみ焼却炉



豊橋市資源化センターと名付世代型高温燃焼溶融炉ドラム(とくに市提供)

12月に調査結果公表

豊橋市資源化センター(豊橋市)のごみ焼却炉が、平成11年度に運転して以来、炉内の温度低下を防ぐため、通常運転中も灯油を用いて助燃しているが、12月市議会に報告された。10数年前に次世代型高温燃焼溶融炉が追加されたが、メカニカルの不具合で、12月に調査結果が公表される。

助燃剤が累計10億円

三井造船すでに製造中止

豊橋市資源化センター(豊橋市)のごみ焼却炉が、平成11年度に運転して以来、炉内の温度低下を防ぐため、通常運転中も灯油を用いて助燃しているが、12月市議会に報告された。10数年前に次世代型高温燃焼溶融炉が追加されたが、メカニカルの不具合で、12月に調査結果が公表される。

紙名〈澄んだ空気と水〉の命名意図

生物は太陽の光と熱により生息し、空気と水の環境度合いによって生命の維持が左右されています。この会は、わが故郷・緑多き山形が、でき得る限り澄んだ空気と水を維持し、地球汚染の要因とならぬよう努力して行きたいという理念に由来しています。